

1月1日あれこれ

現在、私達が使っている暦は、世界の多くの国々で使われている太陽暦法のグレゴリオ暦である。1582年、教皇グレゴリオ十三世の名において、ユリウス暦を改暦したものである。改暦はユリウス暦が4年に1回閏年を置いたので、平均の1年の長さが365.25日となり、実際の太陽年の365.2422日に比べて長いために、長い間にずれてきていた春分の日をもとの3月21日頃にもどすという宗教的理由があった。グレゴリオ暦は、4年に1回閏年を入れるが、400年に3回閏年を抜くことで平均365.2425日となり、ほぼ実際の太陽年の長さと等しくなる。

ユリウス暦は紀元前46年に、ユリウス・カエサルによって制定されたが、年初もこの時公式にJan.(1月)1日と決められ、それが現在まで踏襲されているようだ。ユリウス暦のもとになった古ローマ暦は、Mar.の月から始まる10か月しか名がつけられておらず、残りの約60日は付加日だった。後にJan., Feb.の2か月の名が加えられたが、閏年には年末であったFeb.の月を1日増やすこと、月名が例えば、Sept.が7の意味であることはその名残である。後にローマ暦は、慣習上はMar.を年初に使い、公用年の年初には冬至近くのJan.が用いられたようだ。紀元前46年は445日にわたる大混乱の年であった。ローマ暦は太陰太陽暦の影響を受けており、この混乱はカエサルが紀元前45年のJan.1日を新月でスタートさせようとしたせいかもしれない。しかし、太陽年と朔望月の12か月は一致しないので、今になってみれば、1月1日は天文学的にも意味のない日になってしまった。

ところで、年初が1月1日になった理由は上に記したが、西暦元年1月1日は何曜日だったのだろうか。曜日に日・月・惑星名がつけられ、今のような形の曜日が用いられるようになったのはローマでは3世紀頃だと言われているので、実際に曜日が付されていたとは考えられないが、上で記した暦法を元にさかのぼってみよう。

1994年1月1日は土曜日である。この西暦をグレゴリオ暦と読み替えれば、グレゴリオ暦元年1月1日 - もちろんこのような日付けは歴史上存在しないが - は1994年1月1日までの閏年の数を数えることによって $1993 \times 365 + 483 = 727928$ 日前となり7で割って曜日を確定すれば月曜日となる。

次に1582年10月4日までがユリウス暦で翌日をグレゴリオ暦の1582年10月15日として計算すれば $(1993 - 1582) \times 365 + 100 + 78 + 1581 \times 365 + 395 + 277 = 727930$ 日前となってユリウス暦元年1月1日は土曜日となる。

ところがユリウス暦では閏年の入れ方を間違えた時期があり、アウグストゥス・オクタ비아ヌスが正したとされている。この調整が紀元前6年から紀元7年まで閏年を置かないことで行なわれたとすれば、実際のユリウス暦元年1月1日は727929日前の日となって日曜日である。